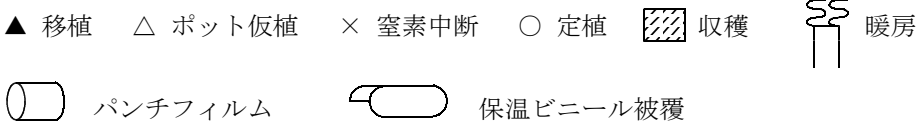


作目名	いちご
-----	-----

作型名	促成栽培
-----	------

(品種：濃姫)

月	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品 種
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
ポット育苗																									
促成																									



○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域
  - 岐阜、西濃、中濃、東濃
- (2) 立地条件
  - ①気象条件
    - 1月及び2月の月別平均気温が 2.5℃以上の地域で、年間平均日照時間が 2,000 時間を超える日照の比較的多い地帯。
  - ②ほ場条件
    - 苗床は排水良好で、保水力、通気性のある土壌。砂壤土が最も望ましい。
    - 田畑とも栽培可能だが、田の場合は用排水分離された水田が望ましい。
    - 土壌 pH は 5.5 ～ 6.0 の弱酸性を好む。
  - ③栽植株数 (10a 当たり)
    - 7,300 ～ 8,000 株
- (3) 目標収量 (10a 当たり)
  - 5t

○施肥基準

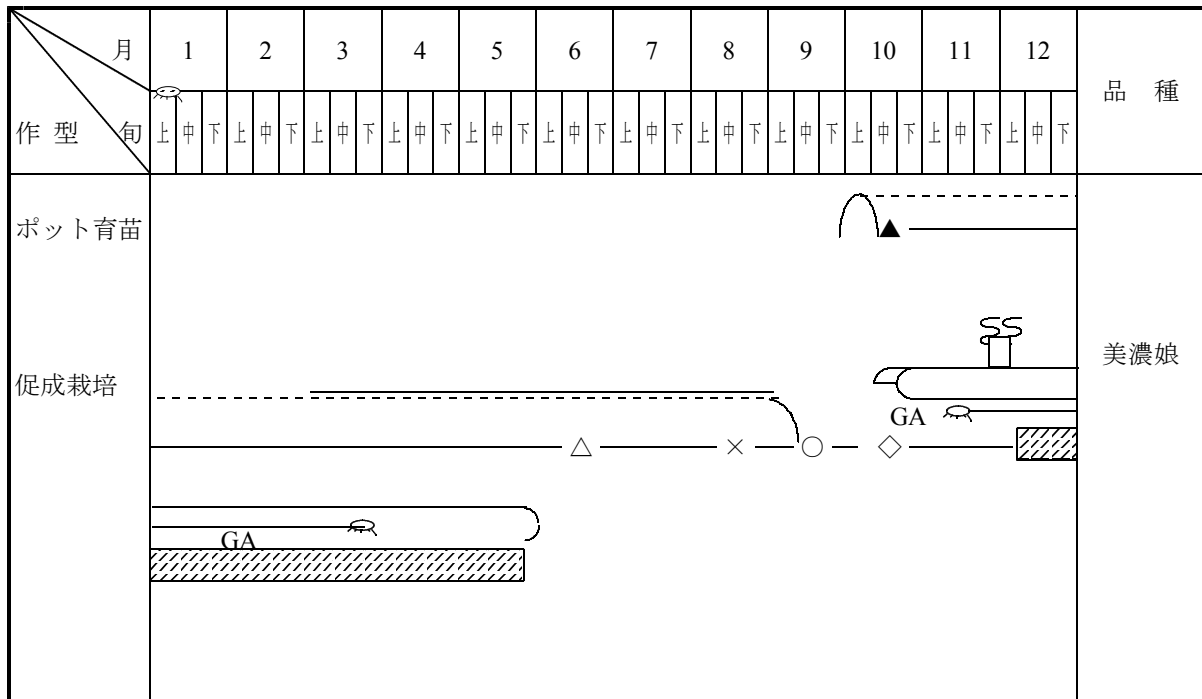
(1) 施肥基準量 (10a 当たり・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥				
				1	2	3	4	5
窒素	化学肥料由来	12.6		8.4	4.2			
	有機質肥料由来	14	14					
りん酸	23		14	7.2	1.8			
加里	24.2		14	8.4	1.8			

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 完熟堆肥は十分に除塩したものを使用する。  
熟度や除塩が不十分な場合は投入量を減ずる。
- 2 基肥は堆肥中の有効肥料成分を測定し、それを施肥基準量から差し引き、施用量を決定する。
- 3 土壌診断により前作の肥料分が残っているようなら、基肥量を減ずる。
- 4 リン酸、苦土、石灰資材は土壌分析結果に基づき、不足している場合のみ施用する。

作型名	促成栽培	(品種：美濃娘)
-----	------	----------



- 雨除け  
 親株定植  
 ポット仮植  
 窒素中断  
 定植  
 マルチング  
 保温  
 GA ジベレリン処理  
 電照  
 加温  
 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃、東濃

(2) 立地条件

①気象条件

1月及び2月の月別平均気温が2.5℃以上の地域で、年間平均日照時間が2,000時間を超える日照の比較的多い地帯。

②ほ場条件

苗床は排水良好で、保水力、通気性のある土壌で、さらに雨除け施設は必須施設である。本ぼでは、電照設備は必須である。暖房機も装備してある方が草勢をコントロールするのに有利である。

③栽植株数（10a当たり）

7,500～8,000株

(3) 目標収量（10a当たり）

5t

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		基肥	追肥		
				植付肥	マルチ前	12月以降
窒素	化学肥料由来	5.6	0.6	—	5.0	—
	有機質肥料由来	9.9	9.9	—	—	—
りん酸	11.25		10	—	1.25	—
加里	12.5		10	—	2.5	—

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

1 本 圃

- a. 土壌改良資材、りん酸資材の施用量は土壌診断結果による。
- b. 基肥は堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。  
肥沃な圃場では施肥量を3～5割減らす。  
定植時期が早いものほど施肥量を2～3割減らす。  
土壌消毒した場合、施肥量は2～3割減らす。
- c. 草勢に応じて追肥を行う。

作型名	高設ベンチ栽培（岐阜県方式）
-----	----------------

月旬 作型	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
高設ベンチ育苗（岐阜県式） [ハンシャワー育苗]																																					濃姫 美濃娘
高設ベンチ栽培（岐阜県式）																																					濃姫 美濃娘

- 親株定植      ≡ 親株養成      ⊙ ランナー発生開始      [ハatched] ランナー受け      × ランナー切り
- ~~~~~ 生産苗養成      - - - 窒素中断      ○ 定植      雨よけハウス      - - - - 遮光
- ◇ マルチ      保温・加温      - - - 根圏加温      電照      炭酸ガス補充
- [Hatched] 収穫

○技術体系設定の前提条件

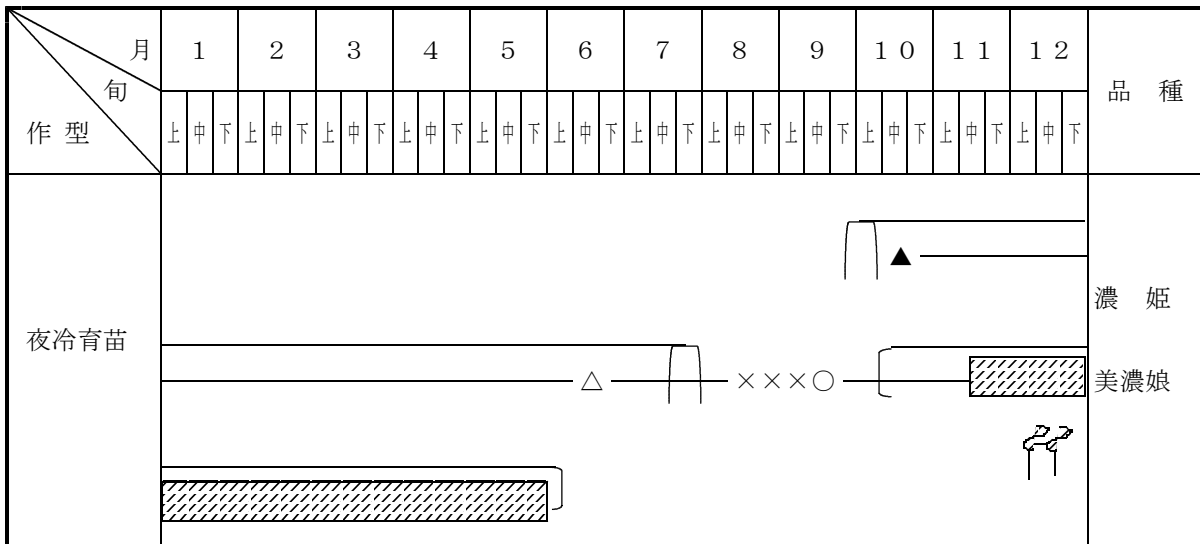
- (1) 対象地域  
岐阜、西濃、中濃、東濃
- (2) 立地条件
  - ① 気象条件  
1月及び2月の月別平均気温が 2.5℃以上の地域で、年間平均日照時間が 2,000 時間を超える日照の比較的多い地帯
  - ② ほ場条件  
高設ベンチ栽培は養液栽培であり、適正範囲内の原水が得られる地帯
  - ③ 栽植密度（10a 当たり）  
8,300 株
- (3) 目標収量（10a 当たり）  
7 t

○施肥基準

(1) 培養液処方

栽培時期	E C (dS/m)	各成分濃度 (me/l)						
		T-N	NO <sub>3</sub> -N	NH <sub>4</sub> -N	P	K	Ca	Mg
9月～収穫始め	0.75	4.5	4.0	0.5	2.1	1.3	2.3	1.3
収穫始め～2月	0.70	4.8	3.8	1.0	2.0	1.8	1.3	0.9
3月～5月	0.65	5.2	3.8	1.4	1.7	2.1	0.8	0.6

作型名	夜冷促成栽培
-----	--------



▲ 親株定植    △ ポット仮植    ××× 夜冷処理期間    ○ 定植

┌ 保温ビニール被覆    ▨ 収穫    暖房

○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域  
岐阜、西濃、中濃、東濃
- (2) 立地条件
  - ① 気象条件  
促成栽培の項を参照
  - ② ほ場条件  
促成栽培の項を参照
  - ③ 栽植株数 (10a 当たり)

7,500 ~ 8,000 株

(3) 目標収量

5 t

○施肥基準

(1) 施肥基準量 (成分量)

施肥成分	本ば (10a 当たり成分量・kg)							育苗ほ
	総量	基肥	追 肥					ポット育苗 (mg/鉢)
			1	2	3	4	5	
窒 素	15(24.1)	10	(2.1)	5	(7)			130
リン酸	15(19.5)	10	(1.5)	5	(3)			110
加 里	15(20.0)	10	(2.0)	5	(3)			130

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

① 本 ば

- a 土壌改良資材、リン酸資材の施用量は土壌診断結果による。
- b 基肥は堆肥の成分を考慮し、基肥を施用する。
- c 普通促成栽培より定植時期の早い夜冷育苗による促成栽培では、腋果房の花芽分化を考慮する場合、地温が高く地力窒素の肥効が見込まれるため、多肥をせず、普通促成栽培の2～3割減とする。
- d 頂果房重視型の収穫を見込む場合は、普通促成栽培と同等の施肥量とし、定植直前または直後に植え付け肥として追肥1を施用する。
- e 草勢に応じて追肥を行う。